



# 羽衣国際大学Sports

## 文武不岐の実践を通して人間力を高める

BCthe ONE 羽衣国際大学  
HAGOROMO University of International Studies

現代社会学部 現代社会学科  
放送・メディア映像学科  
人間生活学部 人間生活学科  
食物栄養学科

〒592-8344 大阪府堺市西区浜寺南町1-89-1  
TEL 072-265-7001 FAX 072-265-7005  
https://www.hagoromo.ac.jp/

はごろもこくさい 検索



# 全員駅伝 旧コース換算で チームベスト記録

2024年9月28日(土)  
第33回関西学生対校女子駅伝  
(神戸あわせの村周回コース/6区間33.0km)  
⑬2時間02分18秒

1区 (6.9km)	中澤25分16秒=区間15位
2区 (3.3km)	岩本11分42秒=区間15位
3区 (6.5km)	進藤24分20秒=区間14位
4区 (6.5km)	奥澤24分06秒=区間13位
5区 (3.3km)	河本11分49秒=区間11位
6区 (6.5km)	森井25分05秒=区間13位

女子駅伝部

順位は13位で、目標としていたチーム歴代最高順位の更新は果たせませんでした。記録は旧コースのチームベストを更新することができました。距離が伸びた新コースでは、一人ひとりの競技力の向上が来以降重要になってきます。全員が5000mや1万mに対応した走りができるように努力を積み重ねて、個々の力を伸ばしていきます。

今大会では多くの保護者の皆様、卒業生の皆様、大学関係者の皆様にたくさんのご声援をいただき、サポートしていただいたおかげでベストを尽くすことができました。本当にありがとうございました。結果で恩返しができるように、引き続きチーム一丸となって取り組んでいきます。

**1区・中澤麻友** 食物栄養学科4年  
4年間の集大成である関西女子駅伝では1区を走りました。個人としては満足のいく走りはできませんでしたが、しっかりと襷を繋げることができ、最後までチーム全員で闘えたことは嬉しかったです。たくさんのサポートや応援のおかげで、4年間全力で陸上競技に取り組むことができました。本当にありがとうございました。

**2区・岩本真歩** 現代社会学科スポーツ4年  
4年間の集大成でもあり、13年間の競技生活の締めくくりのレースでした。一人ひとりがベストを尽くした結果、来年度以降に繋がるレースになりました。キャプテンとして上手にサポートすることもありますが、どんな時も支えてくれたチームの仲間への感謝



引退する4年生を囲んで。

3年目で初めてメンバー

女子駅伝部 公式インスタグラム

女子駅伝部 公式サイト

**3区・進藤秋穂** 食物栄養学科4年  
大学生活最後となる関西女子駅伝では一人ひとりが自覚を持ち、練習に取り組んできたので、自信を持って走ることができました。たくさんの方々の応援があり、当日は一人となり、全力で走り切ることができました。

**4区・奥澤虹雨** 食物栄養学科3年  
昨年度に引き続き、6.5km区間で出場しました。目標記録には届きませんでした。記録には届きませんでした。距離の変更はありましたが、チームとして過去最高タイムで走ることができたことは収穫です。来年はキャプテンとしてチームを引っ張る走りをします。

**5区・河本優希** 食物栄養学科3年  
3年目で初めてメンバー

**6区・森井結菜** 食物栄養学科1年  
1区から先輩たちが襷を繋いでいる瞬間を見て勇気づけられました。そのおかげで襷を繋ぎ切ることができました。今の全力を出し切ることができました。応援してくださったたくさんの方々、監督、チームに感謝の気持ちでいっぱいです。全日本大学女子駅伝優勝に向けて、これから更なる成長に努めます！

**控え・木村心咲** 食物栄養学科3年  
今年の駅伝は選手として出場できませんでしたが、チームとしてのレベルアップを感じました。来年の最後の駅伝ではメンバーとしてチームの力となるように努力していきます。

**控え・岡本百萌子** 食物栄養学科1年  
今回、入学して初めて駅伝を経験しました。練習からいつもと違う緊張感がありました。メンバーに入ることができませんでしたが、先輩方に食らいつき、成長することができました。来年はメンバーとして走り、チームに貢献したいです。

の気持ちを込めてベストを尽くすことができました。今後は3年次編入をして家庭科教員を目指しながら、後輩たちのサポートをします。全日本大学女子駅伝や富士山女子駅伝の常連チームにしていきたいようにサポートします。

として走ることができました。チームに貢献する走りができたのかわかりませんが、持てる力を発揮できたと思います。たくさんの方々の応援・サポートに感謝しています。

# 西日本インカレに6人出場

岩本 最初で最後の西日本インカレは楽しんで走ることができました。次年度は決勝で勝ち切ることができ、駅伝に向けていい弾みとなりました。

中澤 1500mで決勝に進出することができました。入賞にあと一步で届きませんでした。関西インカレに続き、西日本インカレでも決勝の舞台で走れたことは良い経験となりました。

進藤 トラックレースで初めて1万mに出場しました。距離を踏む練習をたくさん積み、駅伝に向けて自信をつけることができたレースでした。

奥澤 自己ベスト更新は果たせませんでした。自己ベストと同タイムで走ることができました。次年度は決勝で勝ち切ることができ、駅伝に向けていい弾みとなりました。

河本 強い選手と走れる絶好の機会でしたが記録更新を目指していましたが達成できませんでした。いろいろな選手の走り方を見て学べたことが多く、良い経験となりました。

木村 レベルの高い西日本インカレを経験できてとても楽しかったです。課題を日々の練習で改善し、勝負できる選手になれるように努力していきます。



2024年8月、長野県須坂市の「峰の高原」で7泊8日の合宿を行いました。標高は1500mあり、猛暑の大阪では難しい走り込む練習を高地で、夜に行ったミーティングではフォームの改善を中心に話し合い、課題や今後意識する点などを確認することができました。距離に対しての不安もなくなり、個々の力を強化することができた合宿でした。

- ### 【大会成績】
- ◆西日本学生対校選手権(2024年7月)
    - ▽800m予選/中澤2分17秒87
    - ▽2分21秒19/河本2分25秒85
    - ▽1500m予選/中澤4分34秒35
    - ▽4分44秒35/奥澤4分34秒35
    - ◎中澤4分37秒22/▽3000m
    - ◎木村12分28秒99/▽1万m
    - ◎進藤39分27秒13
  - ◆長距離強化記録会(2024年7月)
    - ▽1500m予選/中澤4分34秒51
    - ▽3000m/岩本10分35秒57/森井10分57秒56/岡本12分09秒45/▽5000m/進藤17分57秒30
  - ◆京都産業大学競技会(2024年7月)
    - ▽1500m/中澤4分35秒40/岩本4分52秒22/森井5分05秒25/岡本5分44秒02/▽3000m/河本19分30秒15
  - ◆関西学生新人選手権(2024年9月)
    - ▽1500m予選/岡本2分37秒93
    - ▽1500m決勝/◎森井5分06秒19
  - ◆吹田市長距離ナイター記録会(2024年9月)
    - ▽5000m/中澤17分46秒89/奥澤18分08秒78/進藤18分20秒12/岩本18分21秒19/河本19分05秒40/木村19分30秒15

# 大阪学生選手権 女子団体



大阪学生選手権(団体)女子チームは昨年・一昨年に1部決勝で関西大学に1-2で敗れて準優勝だった。その壁を今年は「越えられるか」、男子チームは他の1部チームと「どのくらい」の差があるかを掴むというテーマで臨んだ。

男女ともオールドにも工夫が必要となる中でダブルスのペア、シングルスでの安定度

などを考慮して臨んだ。男子は関西大学との対戦で野間・和田ペアが3ゲームとも延長となり、20-22、20-23、21と勝ち切ったポイントが唯一の勝利。3戦3敗で差は大きい。2部1位との入替戦はダブルスを2つ取り、2-1で1部残留を決めた。



野間 和田  
中盤12-14とリードされるが、粘り強く長いラリーに耐え、17-14と逆転に成功。その後も長いラリーが続いたが、20-16とマッチポイントを握った。



バドミントンクラブ

# 健闘 初出場ベスト16

## 全日本学生大学対抗女子団体

バドミントンの西日本学生選手権大会(2024年8-9月)で、女子チームは関西大学に3-2で競り勝ったことが奏功し、団体戦でベスト8入り。初の全日本学生(インカレ)出場権を獲得した。

出場ながら、開催地の群馬県出身の近藤と柏瀬を中心に、全員がリラックスしたプレーを見せて、3-0でストレート勝ちした。



関西学生秋季リーグは女子が2部4位、男子が2部8位。関西学生新人戦では女子単Aで近藤3位、同Bで竹之内萌(1年)が優勝、男子単Bで谷優志(2年)が3位と健闘した。

## 2025年4月始動 競技スポーツ副専攻

羽衣国際大学は2025年4月から「競技スポーツ副専攻」を設置します。副専攻とは、所属する学部学科のキャリアキュラムを学ぶ主専攻に加えて、学部学科の区分を超えて、一人ひとりが主体的に興味のある分野を学修する制度です。課程を修了すると副専攻課程修了証が授与されます。

### 強化クラブ特設ページ

羽衣国際大学公式サイトに、強化クラブの活動や大会成績などを発信する特設ページができました。「文武不岐」に励む強化クラブの学生たちの活躍をぜひご覧ください。

クラブ情報を  
続々更新!  
QRコード

大学スポーツで  
あなたは、予想以上のあなたになる。  
強化クラブ



大会成績	
◆全日本学生大学対抗戦	女子団体 1回戦0-3 札幌大 2回戦●1-3 筑波大 〔ベスト16〕
◆大阪学生選手権(団体の部)	女子 2部4位(2勝3敗) 男子 2部8位(0勝5敗)
◆関西学生秋季リーグ戦	男子入替戦 0-3 京都大 〔2部残留〕
◆関西学生新人戦	女子シングルスA 近藤ももな 第3位 女子シングルスB 竹之内萌 優勝 男子シングルスB 谷 優志 第3位
◆全日本学生選手権	女子シングルス 近藤ももな 2回戦敗退 女子ダブルス 近藤ももな 2回戦敗退
◆西日本学生選手権	女子団体 ベスト8(インカレ出場権獲得)
◆個人戦	女子シングルス 近藤ももな ベスト16 (インカレ出場権獲得)

# チームの成長を感じたリーグ戦

## 秋季関西学生リーグ2部



女子ソフトボール部

### 成長を実感した秋季リーグ 春季リーグでさらに飛躍を

【評】2024年度の第55回秋季関西学生ソフトボールリーグは従来の形式とは異なり、1部は7大学の総当たり戦、2部は9大学を2つに分けてそれぞれのリーグで総当たり戦を行った後順位決定戦を行うという形式で行われました。

羽衣国際大学にとっては春季リーグよりも僅差のゲームが増え、チームの成長を実感できたリーグでした。秋季リーグまでに遠征練習試合を重ねてきた成果が出たと思います。

今後はメンバー一人ひとりのレベルアップを図り、秋季リーグで明らかになったチームの課題を見直し、修正することにより、来年度の春季リーグでは、さらなる飛躍を目指したいと思っています。

監督 岡本耕一

#### 秋季リーグの感想

悔しさを糧に練習します

上野 優希  
人間生活学科2年



新チームで挑む初めてのリーグ戦でしたが、このリーグ戦に参加するにあたり、周りでサポートしてくださるたくさんの方々のおかげで出場できていることに感謝します。  
今回の秋季リーグでは、前回リーグの時に大敗した

相手に僅差の試合をするのができたと感じます。個々がレベルアップし、チームとしても力を付けたことで、僅差の試合に持ち込める結果に結びついたと思います。

しかし、課題も明確になりました。この冬にチームで課題を見つめ直し、全員で一体となり、さらにレベルアップして、新入生も含め、春季リーグでは順位を上げていけるように力をつけていきたいです。

個人としてもここぞという時に結果を出しきれなかったので、チームに勢いをつけられる選手になれるよう、今回の悔しさを糧に練習に励んでいきます。

関係プレーの改善が必要  
高山 まりな  
現代社会学科2年



秋季リーグでは、これまでの課題を克服できたという良い点もありましたが、新たな課題も見つかったと思います。  
周囲との関係の大切さは特に痛感し、もったいない失点で負けてしまうこともあったので、次の春季リーグまでもっと改善が必要だと感じました。  
個人としてのプレーはもちろんだと思いますが、チームプレーを一番に考えて、これからもっとチームが強くなっていくよう頑張りたいです。

課題を克服して成長したい  
兒島 しの  
人間生活学科1年



秋季リーグは春と比べ、大差のワールドゲームで終わってしまうことが減り、チームでも成長できたと感じました。  
私は秋季リーグでは春よりも結果を残せたので、今後も日々努力をして頑張ります。秋季リーグで得た新たな課題を個人でもチームでも克服して成長していきたいと思っています。



HAGOROMO UNIV  
女子ソフトボール部  
公式インスタグラム

### Topics スポーツ学生の人材育成



#### 文武不岐に取り組む学生対象プログラム

##### 【初年次教育】

2024年度は、新たにスポーツ学生を対象とした初年次教育を始めました。初年次教育の目的は「スポーツに主体性をもって取り組むことができるようになること」、「自律的に自らPDCAを回すことができるようになること」、「大学の授業で学んだことをスポーツで学んだことと往還させ、成長につなげる力を身につけること」です。

入学前教育から初年次教育まで連動した内容で、1年生は、高校生から大学生への移行がスムーズに行われ、学業とスポーツに懸命に取り組んでいます。これらの成果検証は、PROG(シエネリックススキルを測る)と学業成績で行います。

##### 【社会人基礎力研修】

本年度で3年目となるスポーツ学生を対象とした社会人基礎力養成研修の本年度のテーマは、「主体性」「挑戦し続ける力」「セルフコントロール」です。アクティブラーニング型の研修で、硬式野球部、女子ソフトボール部、女子駅伝部、バドミントンクラブの部員が、クラブの枠を越えてグループワークを行いました。

### 秋季リーグ戦 ベストプレー賞

石田 凜音  
人間生活学科2年



このような賞をいただくことができ、大変光栄に思います。秋季リーグは、個人の結果を気にしてプレッシャーを感じることが多かったのですが、自分が不調でも助けてくれる仲間がいて、改めてソフトボールの良さを実感しました。  
嬉しい気持ちもありながら、結果に満足していません。次のリーグは納得のいく結果が出せるよう、この冬、自分ができる精一杯の努力をし、チームの勝利に貢献したいと思います。ありがとうございました。



「熊野大学女子  
チャンピオンソフトボール大会」  
に参加しました！  
普段はあまり試合ができない大学とも試合ができ、爽やかな遠征になりました。

# 近畿学生野球連盟 秋季リーグ3部 3位

打線活躍も守備に課題



硬式野球部

【評】2024年度の秋季リーグでは、上級生の投手陣が故障で離脱したことが戦況に大きく響いた。開幕戦は打線が奮起して白星を飾るも、そこから3連敗を喫し、終わってみれば4勝4敗。8試合で60失点と毎試合苦しい展開を強いられた。

上級生に代わって登板したふたりの1年生投手は、試合の流れをつくるどころか、8試合を投げ切るの

やっとならあり、投手における制球力、配球力、持久力に課題が見えた。登板を重ねるごとに内容は良くなり、先に活きてくると思えた。投手も多く見られた。

それでも、攻撃面では得点数が若干減少したものの、リーグトップとなる12打点を挙げた4年生の砂川耀春と、7打点を挙げた3年生の伊藤嘉英と嘉儀真之介が中心となった打線は、昨春レベルで奮起した。来春に向けてはバッテリーを中心とした守りの強化を図って臨めるように準備を続けたい。

### 【リーグ戦順位の推移】

年次	勝率	順位
2017 秋Ⅲ部	3勝4敗1分 .429	4位
2018 春Ⅲ部	4勝4敗 .500	5位
2018 秋Ⅲ部	4勝5敗 .444	4位
2019 春Ⅲ部	6勝3敗 .677	3位
2019 秋Ⅲ部	3勝4敗2分 .429	4位
2020 春Ⅲ部	【中止】	
2020 秋Ⅲ部	2勝3敗1分 .400	3位
2021 春Ⅲ部	3勝0敗1分 1.00	1位
(公式記録) 入替戦なし		
2021 秋Ⅲ部	6勝2敗 .750	2位
2022 春Ⅲ部	7勝0敗1分 1.00	優勝
入替戦敗退 三部残留		
2022 秋Ⅲ部	4勝3敗1分 .571	3位
2023 春Ⅲ部	2勝5敗1分 .286	4位
2023 秋Ⅲ部	5勝3敗 .625	2位
2024 春Ⅲ部	6勝2敗 .750	2位
2024 秋Ⅲ部	4勝4敗 .500	3位

### 打点リーグ1位

砂川耀春(4年)

兵庫 神戸国際大学附属高校出身

### 首位打者&ベストナイン(外野手) 初受賞

伊藤嘉英(主将/3年)

香川 観音寺総合高校出身

### 打率チーム2位

嘉儀真之介(副将/3年)

島根 三刀屋高校出身

### 大会成績

◆近畿学生野球連盟 2024年度秋季リーグ(Ⅲ部)

【第1節】 ○8-5 奈良教育大学  
●2-14 " 大阪教育大学

【第2節】 ●5-7 大阪教育大学  
●4-9 " 奈良大学

【第3節】 ○9-2 奈良大学  
○13-6 " 兵庫県立大学

【第4節】 ●7-13 兵庫県立大学  
○7-4 " 奈良大学

【最終順位】  
優勝：奈良教育大学  
2位：大阪教育大学  
3位：羽衣国際大学  
4位：兵庫県立大学  
5位：奈良大学

### 伊藤が首位打者に輝く

打線好調 秋季リーグ戦

### 羽衣からプロへ、社会人野球へ

大学野球を昨秋まで続けた4年生の本草野拓海と砂川耀春の2人が卒業後もひとつ上の舞台で野球を続けることになった。

### 冬季合宿を高松市で実施

2024年冬季は香川県高松市において合宿を実施した。香川高専高松野球部の吉澤監督より「野球の得意なこと、野球の苦手なこと」をテーマに講話をしていただきました。研修のあとは、金毘羅宮・御本宮までの785段の石段を上りました。

### 社会人野球へ

砂川耀春(内野手)

### 本学から初のプロ選手誕生

本草野拓海(投手)

関西独立リーグ「兵庫ブレーバース」に入団することが決まった。大学では故障続きで公式戦の登板はわずかだったが、打球能力の高さが評価され、指名を受けた。

### 硬式野球部の指導方針

野球を通じて人間形成を図ります。学生の本分は勉強、学生野球の本分は練習です。公式戦も大切ですが、それよりも大切なのは日々の練習です。

- 礼儀正しい大学野球部
- 文武不岐を目指す大学野球部
- 高校より感動できる大学野球部
- 皆から愛される大学野球部

を創ること

### 硬式野球部の地域貢献活動

硬式野球部のリーダー8名が高石市民体育会の補助員を務めました。

### 部長 朝西知徳

1965年10月生まれ、神奈川県横浜市出身。筑波大学大学院体育研究科修了(体育心理学)。山梨

### 総監督 竹之内雅史

1945年3月生まれ、神奈川県須賀市出身。神奈川県鎌倉学園高校では、二塁手として春の甲子園大会に出場。日本通運浦和では外野手として全国優勝に貢献。西鉄ライオンズ、阪神タイガースなどでは、外野手または一塁手として通算216本塁打(プロ15年)。阪神タイガースをはじめ計4球団でコーチおよび二軍監督(計18年)。本学監督を経て、2010年に総監督就任。西鉄ライオンズOB会長も務める。

### 監督 伊丹康治

1972年5月生まれ、大阪府箕面市出身。日本体育大学では、捕手として明治神宮野球大会(3年秋)、全日本大学野球選手権大会(4年春)に出場し、それぞれ全国ベスト4へ進出。和歌山・初芝橋本高校では、コーチとして夏の甲子園大会に出場(のちに監督就任)。本学スカウティングスタッフ・副部長・コーチを経て、2016年秋に監督就任。スポーツ振興課にて強化指定クラブの発展に尽くす。

### 硬式野球部の指導方針

日本航空高校コーチを経て、茨城・鹿島学園高校、鳥取・米子商業高校(現・米子松蔭高校)、本学、羽衣学園高校(初代)の4校で監督を歴任。夏の甲子園大会出場1回、中国大会出場6回(最高ベスト4)。監督として通算141勝(公式戦)。昭和から平成、そして令和まで30年以上、学生野球を通じた人間教育を続ける。

